

読売新聞

「ジェーン・エア」再演	12	総合/スポーツ	2
「邦銀の国債保有懸念	2	きれい/小説	3
「北のカナリアたち	6	モードUPDATE	4
「うつ病患者「3.5億人」	10	pop style	6
「クマと車 国道で衝突	11	文化	9
		演劇	12
		商況/TV・ラジオ	5

発行所 読売新聞北海道支社 〒060-8656 札幌市中央区北4西4-1 電話(011)242-3111(代) www.yomiuri.co.jp

ネットゲーム依存 重症

アイテム代100万円 ■睡眠2時間

若者の相談急増



中学時代からゲームにのめり込んでいる専門学校生(5日) 土居宏之撮影

若者を中心に、オンラインゲーム依存症が深刻化している。「もう何もゲームをやられない」「高額の金を使ってしまった」「なだり病院に相談する件数は急増。ネット依存の専門外来を設ける病院も現れた。(土居宏之)

「達成感」で

「しまった、2時間も寝てしまった」。午前6時。ソファで携帯電話を握りしめたまま眠っていた東京職内の専門学校生(19)は、目を覚ますと、また携帯をいじり始めた。多い日は寝

オンラインゲーム パソコンや携帯端末から、インターネットを通じて多数の人が同時に遊ぶことができるゲーム。ゲームを知り合った別の利用者と会話を熱心したり、一着に勝つと嬉しんだりすることがある。熱中しすぎて学校や社会生活に支障が出る「ネットゲル入」と呼ばれる人たちもいる。

ほとんど睡眠もとらずに終日ゲームに没頭する。携帯電話のゲームを始め、たのは中学一年の頃。最初は通学途中の暇つぶしだったが、次第に生活が変わり

始めた。ゲームは原則無料だが、100万~1000万円の有料アイテムを使えば、キャラクターの体力や対戦時の攻撃力を高めることができ、ゲームで知り合った約30人の「仲間」から、「すごいね」とほめられるのが心地よかった。高校に入ると、小遣いやバイト代など毎月8万円前後をつぎ込み始めた。お年玉の10万円は10日間で消えた。5万円の督促状が自宅に郵送され、親に発覚した時には、既に100万円以上を投じていた。寝不足で運動を続けず、体重が激減していった。家族に連れられて民間団体のカウンセリングを受け、一時的にゲームから離

れたが、今春、専門学校に入學すると再び別のゲームにはまってしまう。「もう限界。このままじゃ死んでしまふんじゃないかと怖いな」と専門生が、やめられない。「耽溺した先輩の話などを聞いても将来に希望がもてない。でもゲームの中では着実にキャラクターが成長し、アイテムもたまっていく。現実の社会にはない達成感がある」と話す。

アルコール依存治療で有名な久里浜医療センター(神奈川県横浜須賀野市)では昨年7月、日本で初めて「ネット依存」の専門外来を設立。

専門外来も

相談に来る7割以上が中高生だが、10年以上はまっている30歳代もいるという。こうした現状に、ソーシャルゲーム業界は自主規制に乗り出している。業界大手のフリーと「モバゲー」を運営するフリー・エヌ・イーでは、今年4月以降、課金額の上限を15歳以下は5000円とするなどの制限を設けた。久里浜医療センターの樋口進院長は「業界の自主規制には限界がある。社会的な規制も検討する価値がある」と指摘する。